



第1号 (2015.4)

発行者：理工学部支援室

<http://www.hino.meisei-u.ac.jp/sae/>

生命科学・化学系に新任教員が着任しました

富宿（ふうしゆく）賢一 准教授



専門分野：有機化学、酵素化学

研究紹介：生体内で様々な代謝反応をつかさどる酵素を用いる物質変換法は、温和な条件下で利用可能であり、環境にやさしく省エネルギーを可能にします。環境調和型の物質合成プロセスの基盤となる、新規かつ斬新な酵素・微生物触媒反応を開発し、有用物質の合成へと展開する研究を進めています。

担当科目：理工実験実習Ⅰ・有機化学Ⅱ 他

電気電子工学系 伊庭健二教授がスマートコミュニティ実証事業における

シンポジウムにパネリストとして参加しました

沖縄県宮古島市で行われたスマートコミュニティの実証事業におけるシンポジウム「～島しょ型スマートコミュニティの可能性～」に電気電子工学系 伊庭健二教授がパネリストとして参加いたしました。

宮古島市は島内で消費した電力エネルギーを数値化し、パソコンやタブレットなどで確認できるシステムを構築しています。インフラ、情報通信、電力やエネルギーなどを有効的に活用しようという次世代の街づくりを実施しており、その取り組みについて他のパネリストと意見を交わしました。（宮古新報（2月19日発行）には伊庭教授のコメントも掲載されています。）

環境・生態学系 吉澤秀治教授の取り組みが

市内広報「清流 news」に掲載されました

環境・生態学系 吉澤秀治教授による「東京グリーン・キャンパス・プログラム」の取り組みが、日野市内広報誌『清流 news Vol.102』（日野市 環境共生部 発行）に掲載されました。

明星大学の東京グリーン・キャンパス・プログラムの取り組み

明星大学理工学部教授 吉澤 秀治

明星大学は、2010年9月に東京都環境局の「東京グリーン・キャンパス・プログラム」に基づき、東京都、日野市と緑地保全活動の協定を締結し、東京都の保全地域の一つである日野東光寺緑地保全地域をフィールドとして、一年生の授業科目の中や、学生緑地環境保全ボランティアサークル「クローバー」の学生が活動を行っています。このプログラムは、次世代の担い手である大学生に緑地保全活動に参加する機会を提供することで、緑の保全に対する関心の喚起や行動力の醸成を促すことを目的としています。

2014年度は、10月19日10時に環境・生態学系の一年生48名と教員が、七ツ塚ファーマーズセンターに集合し、「緑地管理ボランティアの会（代表 小太刀智明氏）」のご指導により活動を開始しました。ノコギリやナタ、カマなどの道具の使い方を習った後、モウソウチク（孟宗竹）の伐採作業と雑木林の下車刈りの作業を行いました。また、「クローバー」の学生は定期的に、下草刈り、間伐、剪定、枝打ち、枯損木整理、竹林管理、特殊植物保護活動、植生調査、清掃活動などの多岐にわたる活動を行っています。

伐採した竹は、リサイクル処理技術の一つとして、11月27日にドラム缶を用いて炭化処理を行いました。炭化活動は、「(NPO)日本エコクラブ DAIGOエコロジー村（理事 庄司和久氏、川口武文氏）」のご指導により、高尾山日影沢の林野庁の高尾森林センターの施設をお借りして行いました。



明星大学 理工学部取り組み

明星大学 理工学部は総合理工学科という一つの学科の中に、「物理学系」「生命科学・化学系」「機械工学系」「電気電子工学系」「建築学系」「環境・生態学系」という6つの学系が設置されています。

1年次は、6つの学系を横断した共通プログラムに基づいた授業を行い、理学、基礎科学、工学を総合的に学びます。そのなかでも、1年次の必修科目「プロジェクトⅠ」「理工実験実習Ⅰ」は理工学への興味をさらに引き出すため、教員が毎年趣向を凝らしながら実施しています。

昨年度はプロジェクトⅠ（夏休み科学体験教室）でベラルーシ国立大学から留学生を招聘し、国際交流を深めました。



7月26日（日）夏休み科学体験教室 開催決定！

「夏休み科学体験教室」とは、地域の小・中学生に「科学」の楽しさ・おもしろさ・夢を伝えるために、理工学部が毎年企画している地域密着型の体験教室です。

理工学部の1年生が、必修科目「プロジェクトⅠ」の授業を通して学んだ内容を、当日集まった小・中学生の先生となり、授業や実験を行います。（写真は昨年度の様子）

今年度は7月26日（日）に実施予定です。

